

鈴木 武 研究員



シダ植物は世界で約1万4千種、日本国内で724種、兵庫県で約280種があります。頌栄短期大学からの寄贈を含め、人と自然の博物館にある標本などを基に県内の分布図をつくっています。阪神間のまちなかには特徴的に分布するシダ植物があることがわかってきました。このうち、2種類について取り上げます。

ホウライシダは暖地性のシダ植物で、涼しげな園芸植物のアジアンタムの仲間です。熱帯温室などでよく植えられています。阪神間の瀬戸内側、尼崎市から神戸市、明石市、さらには伊丹市、宝塚市にかけては水路脇や人家の石垣に雑草のごとく生えています。

ところが、標本情報を確認すると、この地域の標本がほとんどです。姫路市、洲本市ではわずかに1地点です。十分に調べられていない可能性もあるのですが、在野で研究している丸岡氏が集中的に調べている三木市でもわずか1地点のみ、同じく牛島夫妻が植物

誌を公表している猪名川町では記録がありません。阪神間南部に集中的に分布しているのを見てよさそうです。

三田市では屋敷町の旧九鬼家住宅資料館の周りに生えていることを知っていたのですが、それ以外の場所

志を公表している猪名川町では知りません。六甲山地よりも北側ではかなりまれです。見かけたらご一報ください。

同じような分布をしてい

そうなのがモエジマシダです。名前の由来は鹿児島県の桜島の近くにある燃島で見つかったことに由来します。

乾燥した石垣やコンクリート壁の隙間に生育します。2010年代から阪神間での記録が急増を始めました。シダの愛好家が昨年にとめて調査したところ、神戸市の六甲山南麓の住宅地を中心に、西宮市、芦屋市、宝塚市の30地点以上で見つけられつつあります。こちらにも形がわかりやすいシダです。ご近所で見つけたら連絡をお願いします。



ホウライシダ



モエジマシダ

ひとはく
研究員
だより

まちなかのシダ植物

阪神間で特徴的分布